



### 工業技術センターをお気軽にご利用ください！

前所長 永吉 弘己

このたび3月31日をもちまして、工業技術センター所長を最後に30年間勤務しました鹿児島県を退職いたしました。

昭和60(1985)年に県に採用され、商工振興課と工業振興課において工業技術センターの開所準備、そして工業技術センターでの研究・支援業務、その後、産業立地課を経まして最後の2年間は工業技術センター所長として務めて参りました。この間、企業、団体、大学、行政等の皆様方には、公私にわたる温かいご支援ご指導をいただき心から厚く感謝申し上げます。

#### バブルからデフレへ、そして・・・

昭和62(1987)年12月に鹿児島市内にあった3試験場が再編・統合され、工業技術センターとして現所在地(霧島市)に移転されました。当時はバブル景気のまただ中で、テクノポリスやハイテクなどがキーワードとなっていた時期でした。戦後から続いていた国内産業の高度成長が終焉に近づいていたことなど知る由もありませんでした。

その後、1990年代当初にバブル景気が崩壊し、韓国や中国などの新興国の隆盛とともに、価格破壊が進み、国内産業は目先の事業効率化とコストダウンに注力し、そして空洞化とともにイノベーション力を低下させてきたように感じます。また2000年前後のITバブル、その後のIT不況なども国内産業に大きな追い打ちをかけ、失われた10年、あるいは20年と呼ばれる低成長期に突入してしまいました。この間、インターネットでパラダイムを大きく変化させ、イノベーション力を発揮できたのは米国でした。

県内産業では、ここ10年間に大企業の撤退や規模縮小などが相次ぎ、大きな雇用が失われてし

まいりました。県内産業を技術面で支援する組織の一員だった者として、その責任を痛感しています。

一方、独自の技術開発や新製品を開発する企業を支援し、さらに優れた技術や製品となるよう貢献できたことは大きな喜びでした。

また、昭和62年12月の工業技術センター開所後の27年間に、阪神淡路大震災や東日本大震災、県内では平成5年8月豪雨など大きな災害もあり、自然の持つ大きな力と技術の限界、そして人間の英知や絆の大切さも思い知らされました。

#### イノベーションの創出を！

平成23年度の県の製造業振興方針を受け、工業技術センターでは平成24年度から5年間の中期業務計画を作成しました。その計画の中で、技術支援と研究開発の重要性を再認識し、積極的に企業活動を支援することを表明しています。企業あつての工業技術センターであり、多くの企業にご利用いただき、かつ貢献していくことが工業技術センターの使命であり存在意義です。

今後の工業技術センターに期待することは、県内産業のニーズや市場ニーズ、時代の要請等を的確に捉え、ものづくりコンシェルジュとして、そして県内産業の「技術的拠りどころ」として、さらに発展してほしいと思います。また、工業技術センターが中心となり、産学官が連携して、県の施策や方向性、成長産業に合致した先導的な研究開発プロジェクトを推進し、地域イノベーション創出の牽引役として、県内産業の発展に大きく貢献してほしいと思います。

それでは、これまでのご厚情に深く感謝申し上げます、皆様方の益々のご隆盛とご多幸を祈念いたしまして、退任のご挨拶とさせていただきます。